

経営比較分析表（平成28年度決算）

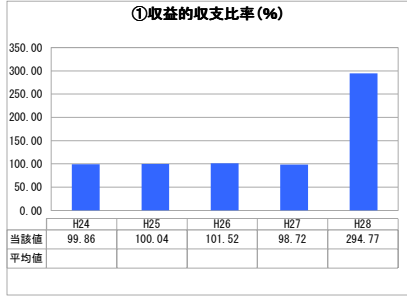
北海道 湧別町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.47	87.27	3,397

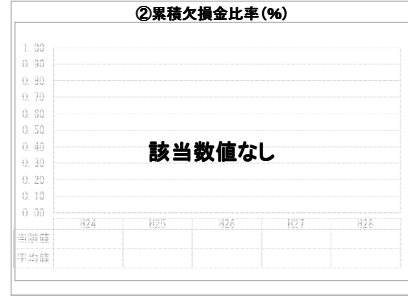
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,203	505.79	18.20
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
498	0.41	1,214.63

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



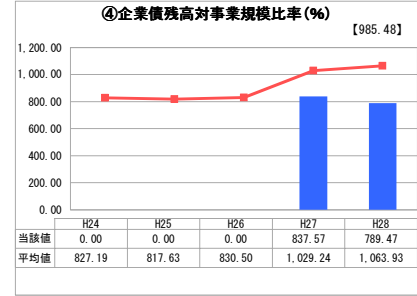
「単年度の収支」



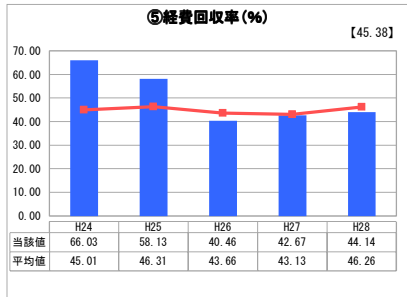
「累積欠損」



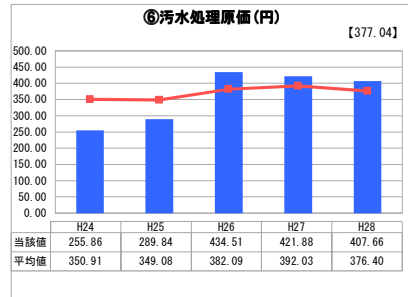
「支払能力」



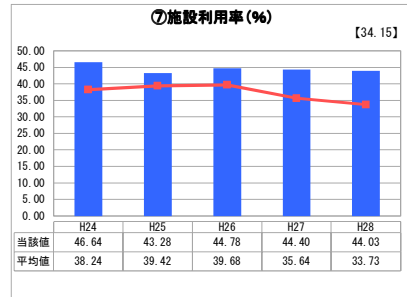
「債務残高」



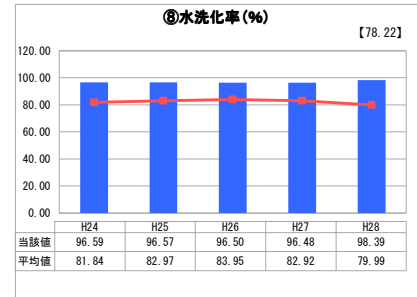
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

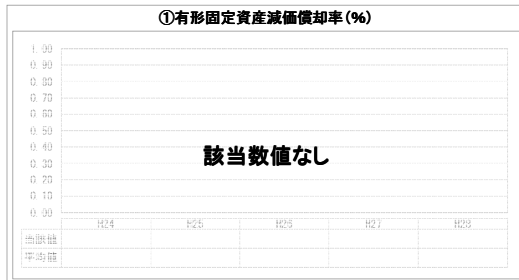


「施設の効率性」

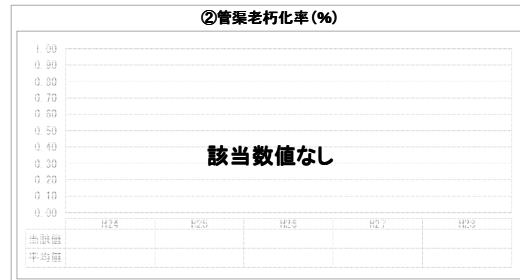


「使用料対象の捕捉」

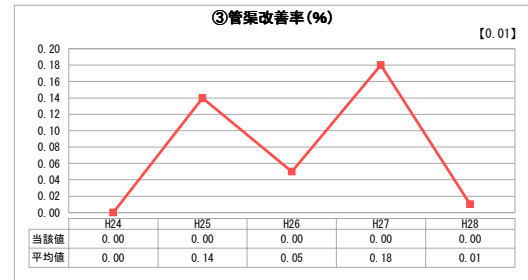
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率はほぼ100%となっていますが、一般会計からの繰入金により均衡を保っています。登床地区は土地の性質から真空処理方式となっていますが、安定した維持管理のため管路施設及び処理場設備の修理・更新を予定しており、今後経費の増大を見込んでいます。

2. 老朽化の状況について

集落排水事業は平成9年度供給開始であり、各戸に設置されている真空弁の更新が必要となっているため、今後更新費用が増大していく見込みとなっています。なお、近年老朽化のため真空状態を維持することが困難となってきていることから、各真空弁にセンサーを付け真空が維持できない弁について、的確に把握できるようにしています。また、処理場においても機械・電気設備が老朽化しているため、今後において改築更新費用の増加が想定されます。

全体総括

本町の集落排水事業については維持管理の安定化を図るための投資が必要であり、また各戸の真空弁も更新していかなければならないため、今後費用が増大していく見込みであり、一層の経営改善について検討しなければなりません。また、下水道事業経営戦略の中でも、人口に対しコストが高いことから、更新時には新しい処理システムの導入を含めた検討が必要になると考えています。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。